

科目区分：スポーツキャリア開発コース 授業科目：運動とバリアフリー

授業評価報告：「運動とバリアフリー」（H23後期授業）の授業デザインに関する受講生の意識

1 はじめに

本授業は、生涯学習群スポーツ健康科学課程3年生必修の授業である。

この課程では一年次終了後、スポーツ指導者養成コースと学生がこれまで培ってきたキャリアと潜在するキャリアを活かして、社会で活躍できる人財を育成するスポーツキャリア開発コースに、学生の選択によって分かれる。

本授業の中では、学生の学士基礎力からの発展を期待するキャリア形成支援を目指し、山本万喜雄4コマ、牛山眞貴子12コマで授業を構成した。社会的教養としての健康、福祉、協働、バリアフリー、ノーマライゼーションの知識と理解を深め、到達目標に達する力を身につける役割を担う また次年度2012年からは山本先生のご退官により、この授業を牛山が単独で行うことになる。

今後、授業での取組を再考することが必要であるため、今回の授業評価報告の対象授業として、本授業を取りあげることとした。

今回の授業報告では受講生6名に調査を行い、特に授業内容で取りあげている①車いすを使った身体表現の実践の中での意識の変容②授業の流れと取組のクオリティの理解と満足度を検討する。

2 受講生の構成

スポーツキャリア開発コース3年生 6人

3 授業の目的・到達目標

○ 授業の目的

社会貢献できる人間力を構築するためには、ノーマライゼーションに根付いた思考と発想が期待されている。

体育・スポーツを専攻する学生が自分以外の人、特に社会的弱者（子ども、高齢者、障がい者等）として支援を必要とする人たちとの共生と協働を考え、これからの教養として持つべき知識理解ならびに社会を構成する人としてできることを

教育学部 保健体育講座 牛山眞貴子

構想するために、理論と実践の双方向から学ぶことを目的とする。

○ ディプロマ・ポリシー（卒業次の到達目標）

<共通教育の理念・教育方針に関わる項目>

D-1現代社会で生じている健康やスポーツに関するさまざまな課題について論じ、適切な対応を考えることができる。（思考・判断）

D-2多世代にわたる対人関係能力およびコミュニケーション能力を獲得し、豊かな地域社会づくりに貢献するための適切な行動ができる。（態度）

○ 到達目標

1) 知識・思考バリアフリー・ノーマライゼーションの概念を説明し、論述することができる。

2) 技能・表現

障がいのある人、高齢者、生活支援を必要とする人たちと、運動を通して交流することができる。

3) 意欲・関心

積極的に行動することができる、

分け隔てなく人と関わることに能動的に取り組むことができる。

ディプロマ・ポリシーと到達目標は、D-1と知識・思考が対応し、D-2と技能・表現、意欲・関心が対応しており、リンクしている。

4 授業内容

< 授業構成 >

第1回 ガイダンス (授業の目的、日程、評価の確認)、授業マナーとルール、ノーマライゼーション・バリアフリーについての講義

牛山, 山本

第2回 子ども理解 私の出会った子どもたち

山本

第3回 弱さを絆に一保護者との連携

山本

第4回 特別支援学校に置ける体育指導

山本

第5回-9回 障がい者とスポーツ、エイブル・アート 牛山 概要と解説

第10回 障がい者とスポーツ、エイブル・アート 牛山 まとめ (現状と課題)

第11回 実践

車いすを使っの表現活動とダンス・プログラムの実践

牛山

第12回 実践

車いすを使っの表現活動とダンス・プログラムの実践

牛山

第13回 実践

愛媛大学のバリアフリー化の視察と現地調査 (現状と課題) 牛山

第14回 実践

愛媛大学のバリアフリー化の視察とチェックシートによる調査 (現状と課題) 牛山

第15回 チェックシートの報告とこれまでの実践についての振り返り グループワークによるまとめと検討 (プレゼンテーション)、評価

牛山

5 授業アンケートからの授業評価

15回目に受講生にアンケートを実施

各項目の回答からの結果

① 車いすに乗って動く、車いすを動かすことは 貴方にとって有意義でしたか？

6名全員が【はい】と回答した。

② 【はい】の理由 (全回答)

普段はなかなか乗ることのない車いすに乗ることができ、良い体験だった。最後の音楽に合わせたダンスは自分のうちにある何かを解放できた気がして嬉しかった(U)

相手のことを深く考えることができた。車いすだ

からこそできる表現や繊細さ、大胆な動きがあることを知った (Y)

障がいのある人といっしょにできる運動は少なく今日は非常に貴重な経験ができた (T)

車いすに初めて乗ったので慣れてはいなかったが、ケガをしても安心だなと感じたし、つい踊り出してしまふかもしれない。ハッピーだった (K)

車いすダンスの発表を実際に見せていただき今度は体験してみたことで全く違った世界間があることを知ることができた。(SK)

あのスピード感はすごく気持ちがよくて、カーブを曲がる時は恐怖と同時に楽しさをすごく感じる事ができた(YU)

③ エンジン役で気をつけたことについて (記述が多いため省略)

④翼役をするとき気をつけたこと (記述が多いため省略)

⑤どのような感じだったか (記述が多いため省略)

⑥授業の流れに関する感想 (記述が多いため抜粋2名分)

山本先生の講話では頭と心を使って先生の話聞き、そこから感じたことを1人ずつ話し合うきめ細やかな深い授業でした。牛山先生入ってから自分の専門スポーツのバリアフリーを知ることができました。加えて自己体験として車いすダンスができたことは有意義で、頭と心とからだの全部を使った授業を受けることができました。

知識から実技に入っていたことが良かった。始めに講義があり、それぞれが思うことやイメージを持った。その上で実際にからだを動かしてすることで、イメージと違ったこと、新しく発見したことが自然に頭に入ってくるので、とてもいいと思った。

<まとめ>

学生のアンケート評価と感想からも、授業内容に対して積極性の高まり、身近な気づきからのノーマライゼーションへの意識の高まり、行動への自信が表現されていた。ディプロマ・ポリシーと到達目標はD-1と知識・思考が対応し、D-2と技能・表現、意欲・関心が対応しており、ほぼリンクし合っていたことが伺えた。